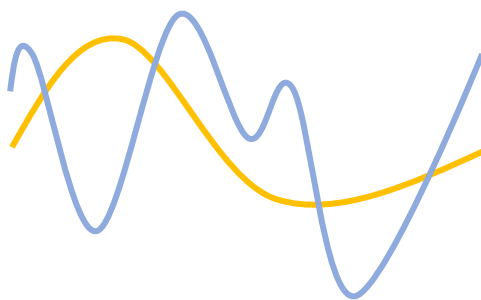


アナリーゼ
波動分析報告書／測定値

あとれとわの塩5年以上

2026年10月15日

天と〇と地（あとれとわ）様



アクアタック研究室
代表／片岡 章



〒 201-0004

東京都狛江市岩戸北3-8-11-401

Tel : 03-3480-9618

E-mail : aquatack@msc.biglobe.ne.jp

HP : <https://www.aquatack.com>

波動分析報告書／測定値

あとれとわの塩5年以上

2026年10月15日

天と〇と地（あとれとわ）様

アクアタック研究室

代表 片岡 章



〒201-0004

東京都狹江市岩戸北 3-8-11-401

Tel : 03-3480-9618

e-mail : aquatack@msc.biglobe.ne.jp

検 体 : あとれとわの塩5年以上

測定形態 : 波動消去したピーカーに検体10gを入れて測定

測 定 者 : 片岡 章

測 定 器 : PRA-NK型

測 定 日 : 2026年10月9, 10, 15日

(S +1 = +100億)

No.	項 目	code	あとれとわの塩5年以上		
1	恒 常 性 維 持 力・免 疫 力	B222	S +68.1		
2	交 感 神 経	D140	S +68.1		
3	副 交 感 神 経	D599	S +67.9		
4	ホ ル モ ン バ ラ ン ス	C895	S +68.1		
5	生体防御力(広義の免疫)	X247	S +68.1		
6	代 謝	H094	S +68.1		
7	血 液 循 環	F543	S +68.1		
8	ミ ネ ラ ル バ ラ ン ス	H013	S +68.1		
9	抗 酸 化 作 用	A214	S +68.1		
10	ス ト レ ス	E222	S +68.1		
11	良 質 な 睡 眠	L206	S +68.1		
12	冷 え 症	K274	S +68.1		
13	だ る さ・倦 怠・疲 労	D823	S +68.1		
14	む く み	E791	S +68.1		
15	痛 み	D296	S +67.9		
16	発 汗 作 用	O789	S +68.1		
17	電 磁 波 障 害	M635	S +68.1		
18	金 属 毒	Z381	S +68.1		
19	薬 の 害	V882	S +67.9		
20	ウ イ ル ス	F121	S +68.1		
21	細 菌 性 毒	F708	S +68.1		
22	動 物 毒 素 (全 種)	D679	S +68.1		
23	ミ ト コ ン ド リ ア	O669	S +68.1		
24	m R N A	M280	S +68.1		
25	血 液	C540	S +68.1		
26	低密度リポ蛋白質(LDL・悪玉)	D853	S +68.1		
27	高密度リポ蛋白質(HDL・善玉)	E018	S +68.1		
28	リ ン パ 液	D175	S +68.1		
29	脳 全 体	C583	S +68.1		
30	甲 状 腺、副 甲 状 腺	E384	S +68.1		
31	気 管	C042	S +68.1		
32	肺	D996	S +68.1		
33	乳 腺	D698	S +68.1		
34	心 臓	D166	S +68.1		

波動値は、どの項目も、数値
の高い方が、望ましい意味に
なります。

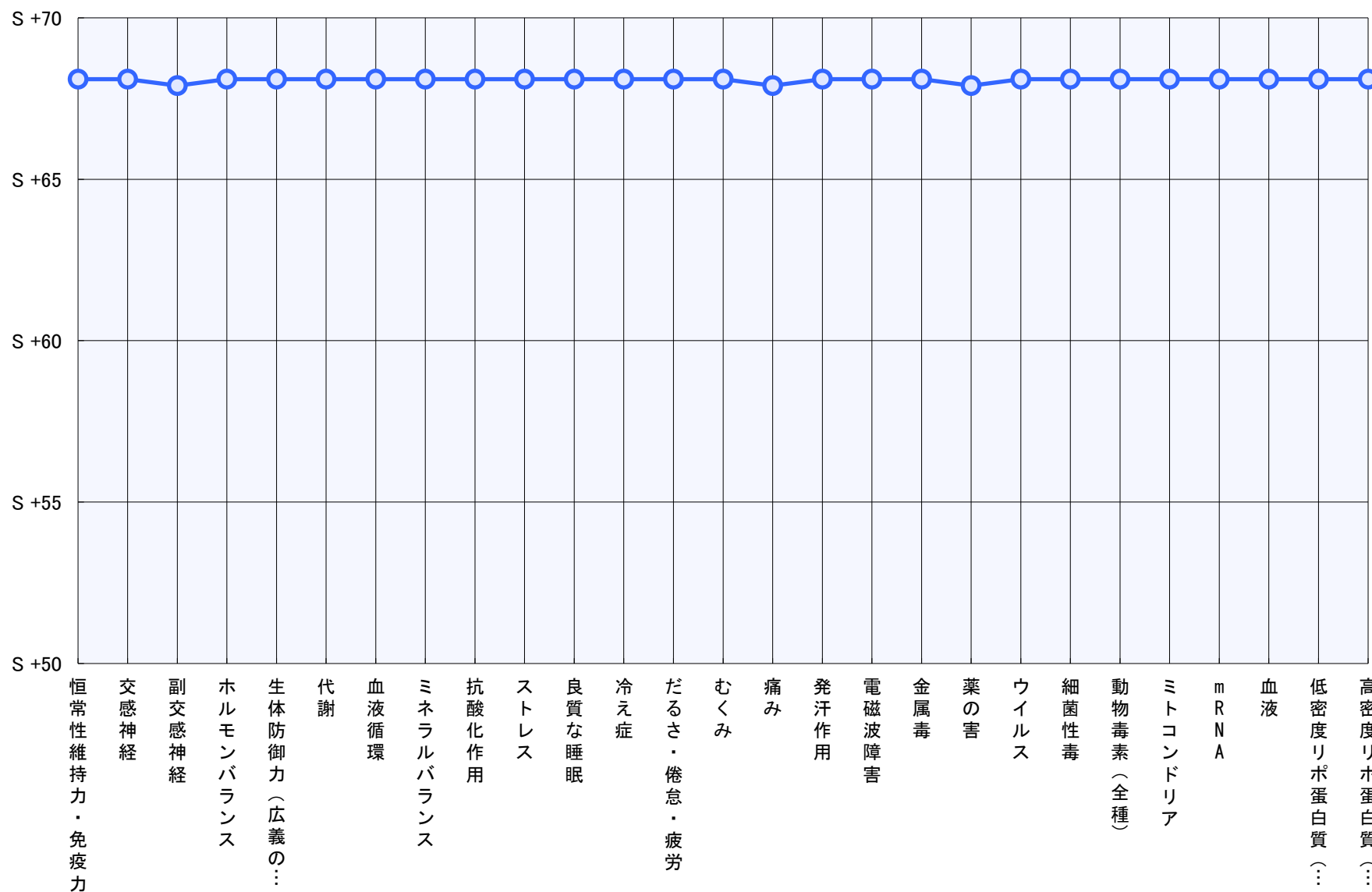
例：
[ストレス]が高い = ストレスの
波動を解消する力が高い

No.	項 目	code	あどれとわの塩5年以上		
35	血 管	D614	S +68.1		
36	歯 周 病 ・ 歯 槽 膿 漏	D008	S +68.1		
37	食 道	D993	S +68.1		
38	胃	D199	S +68.1		
39	腸 管	C419	S +68.1		
40	腸 内 細 菌 叢	D325	S +68.1		
41	肝 臓	D273	S +68.1		
42	脾 臓	D302	S +68.1		
43	腎 臓	D802	S +68.1		
44	子 宮	D449	S +68.1		
45	卵 巢	D096	S +68.1		
46	前 立 腺	D313	S +68.1		
47	精 巢	E104	S +68.1		
48	皮 膚	D330	S +68.1		
49	肌 の き め	K079	S +68.1		
50	肌 の 潤 い	A423	S +68.1		
51	筋 肉	A709	S +68.1		
52	骨	D784	S +68.1		
53	関 節	D630	S +68.1		
54	炎 症	D372	S +68.1		
55	悪 性 腫 瘍 (が ん)	F005	S +68.1		
56	糖 尿 病	D789	S +68.1		
57	ア レ ル ギ ー	G383	S +68.1		
58	熱 中 症	M561	S +68.1		
59	貧 血	I784	S +68.1		
60	頭 痛	O490	S +68.1		
61	認 知 症	D654	S +68.1		
62	脳 梗 塞	A026	S +68.1		
63	鬱 (う つ) 病	D859	S +67.9		
64	甲 状 腺 機 能 亢 進 症	C312	S +68.1		
65	喘 息 発 作	H236	S +68.1		
66	動 悸 亢 進	D212	S +68.1		
67	動 脈 硬 化	F244	S +68.1		
68	高 血 圧	D520	S +68.1		
69	食 欲 減 退	F476	S +68.1		
70	乾 燥 肌	B112	S +68.1		
71	痒 み	D111	S +68.1		
72	ア ト ピ ー 性 皮 膚 炎	F919	S +68.1		
73	通 風	D352	S +67.9		
74	炎 症 性 リ ウ マ チ	J031	S +67.9		
75	中 庸	D883	S +68.1		
76	浄 化	U949	S +68.1		
77	氣 滞	V819	S +68.1		
78	松 果 体	A222	S +68.1		
79	右 半 球 (右 脳)	C666	S +68.1		
80	左 半 球 (左 脳)	C429	S +68.1		
81	直 観 力 ・ 直 感 力	R849	S +68.1		
82	叡 智	Z863	S +68.1		
83	思 考 力	C052	S +68.1		
84	集 中 力	C952	S +68.1		

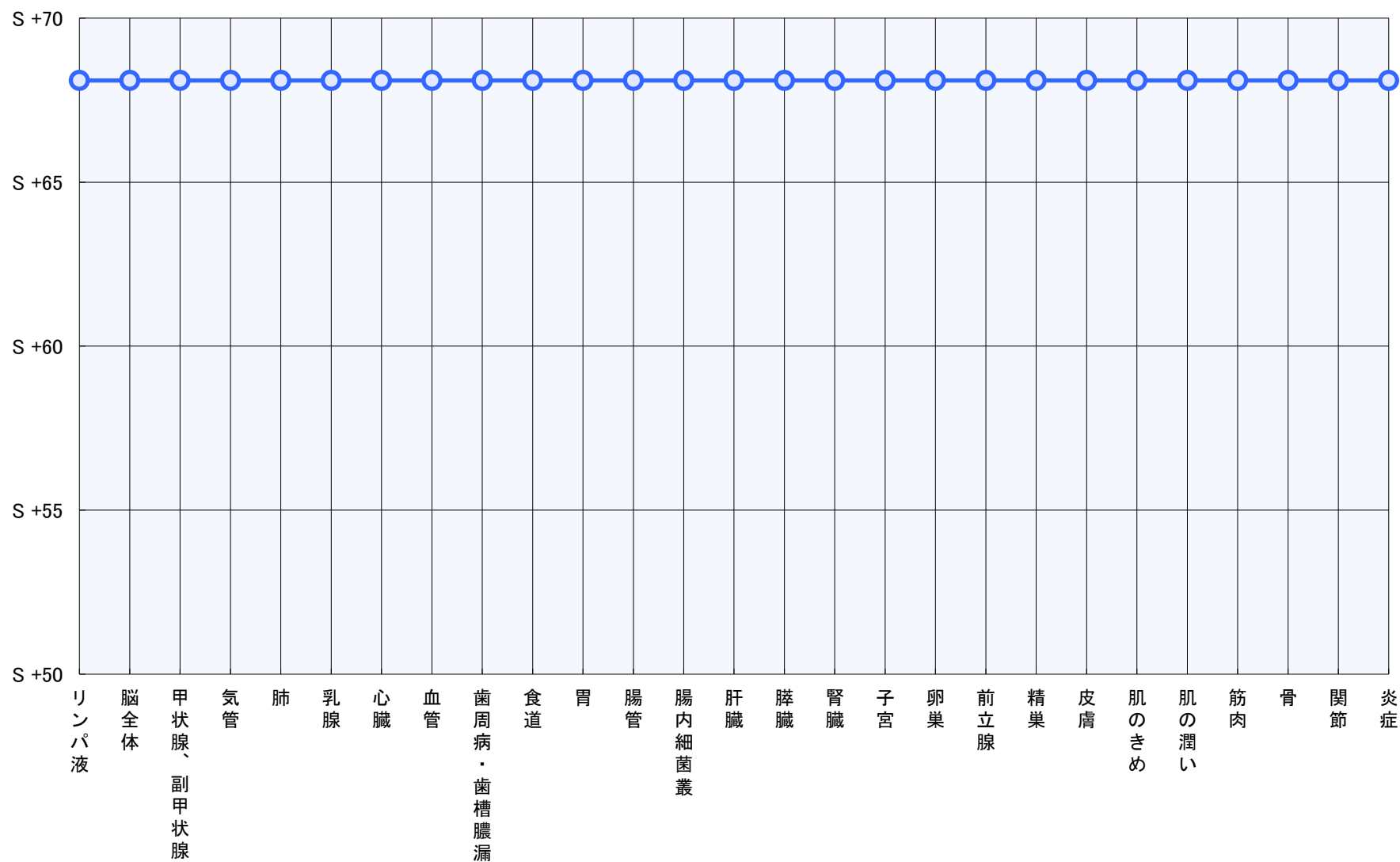
No.	項 目	code	あとれとわの塩5年以上		
85	第7チャクラ（サハスララ）	A000	S +68.1		
86	第6チャクラ（ア ジ ナ）	A120	S +67.9		
87	第5チャクラ（ヴィシュダ）	0000	S +68.1		
88	第4チャクラ（アナハタ）	L300	S +68.1		
89	第3チャクラ（マニプラ）	E533	S +68.1		
90	第2チャクラ（スワディスタナ）	G020	S +68.1		
91	第1チャクラ（ムーラダーラ）	A330	S +68.1		
92	幸 福 ・ 愛	C493	S +68.1		
93	感謝⇔足ることを知らない心	A596	S +68.1		
94	恨 み	D921	S +68.1		
95	心 配 ・ 不 安	D177	S +68.1		
96	怒 り	D672	S +68.1		
97	いらだち・いらいら	D265	S +67.9		
98	責任感・良い判断 ⇔良心の咎め	A301	S +68.1		
99	明確・決断力 ⇔不確か・優柔不断	B437	S +68.1		
100	意 志	D604	S +68.1		
101	強い確信と道徳感 ⇔他からの影響を受け過ぎる	D358	S +67.9		
102	陽気で平和 ⇔ 思わしくない思考に 取りつかれる	B462	S +68.1		
103	自 己 肯 定	M914	S +68.1		
104	気 苦 労	E055	S +68.1		
105	悲 し み	E038	S +68.1		
106	寂 し さ	E030	S +68.1		
107	恐 怖	A241	S +68.1		
108	バランスのとれた生活・勇気 ⇔過労・過労死傾向	A377	S +68.1		
最 大 値			S +68.1		
平 均 値			S +68.1		
最 小 値			S +67.9		
標 準 偏 差 （“S”の付かない表記）			S +0.1	(+3)	
* これまでに測定されている最も高い数値は S +68.1 です。					

- ☆ 頭に“S”のつく数値は、対数(log)を使用して独自に作成したものです。そのため、
- ・ 小数点以下の数値は1～9のみとなります。0はありません。
 - ・ 誤差の切上げ(切下げ)により、見かけ上、平均値が最大値(最小値)と同値になることもあります。
- 数値の詳細については、ホームページから資料『波動値の変換方法』をご覧ください。
- ☆ 「標準偏差」は、データの分布、ばらつきを示す指標です。また、優劣ではなく、ひとつの特徴を表すものです。
- ☆ 波動値は、どの項目も、プラスの方が、望ましい意味になります。
- ☆ 波動値の高低が示すのは、波動の活性度や作用の仕方であって、単なる優劣ではありません。
- ◎ 当波動測定は、現行の科学の範疇に属するものではありません。
- また、医学的・薬学的な効能を保証するものでもありません。
- ◎ 上記の理由から、当報告書につきましては、
- 通常の化学分析・成分分析のような扱い(パッケージへの表示など)ではなく、
- ひとつの試みによる資料としてご利用くださいますよう、お願いしております。
- その範囲・スタンスであれば、印刷物・ネット情報として公表していただいて構いません。

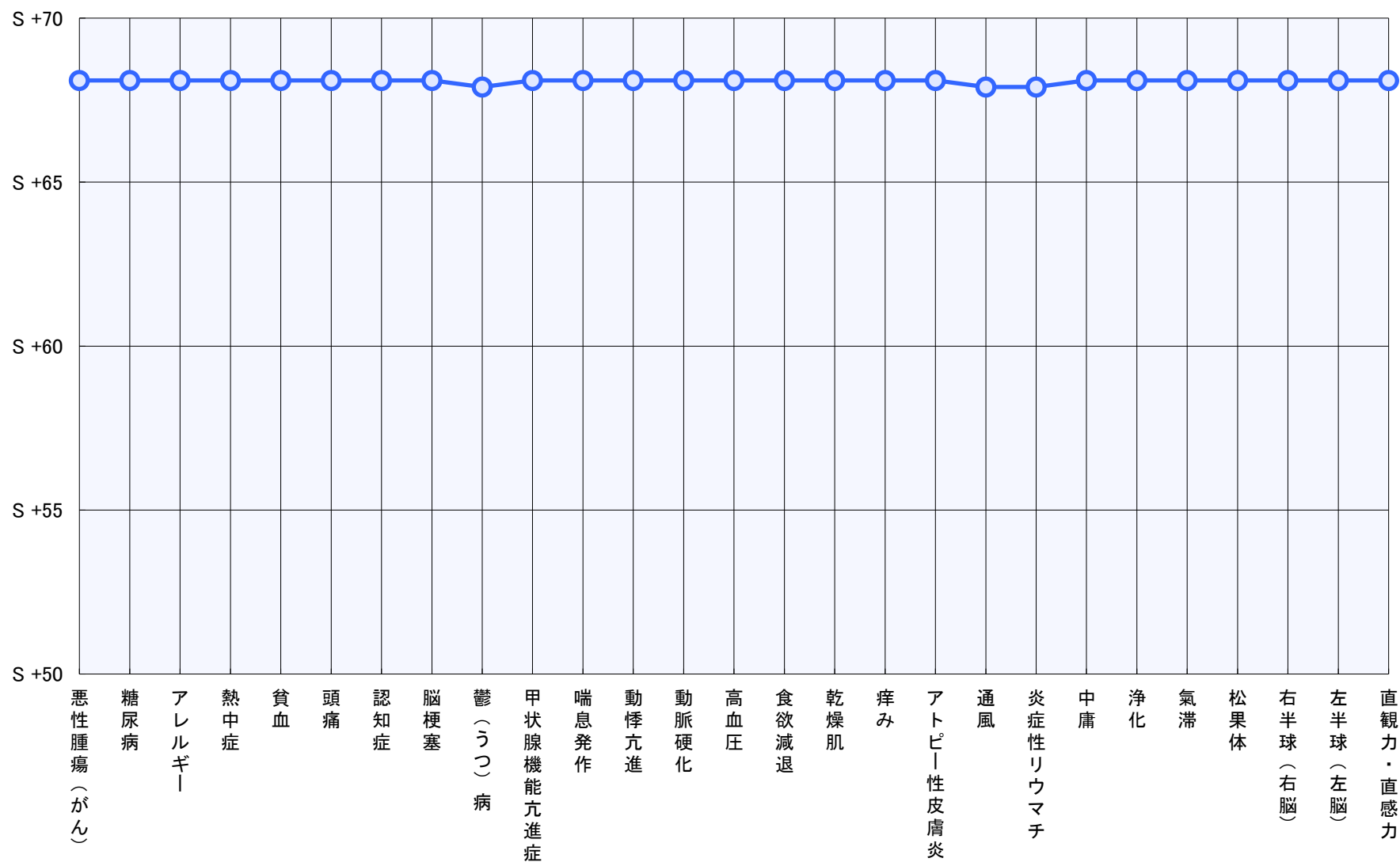
あとれとわの塩5年以上



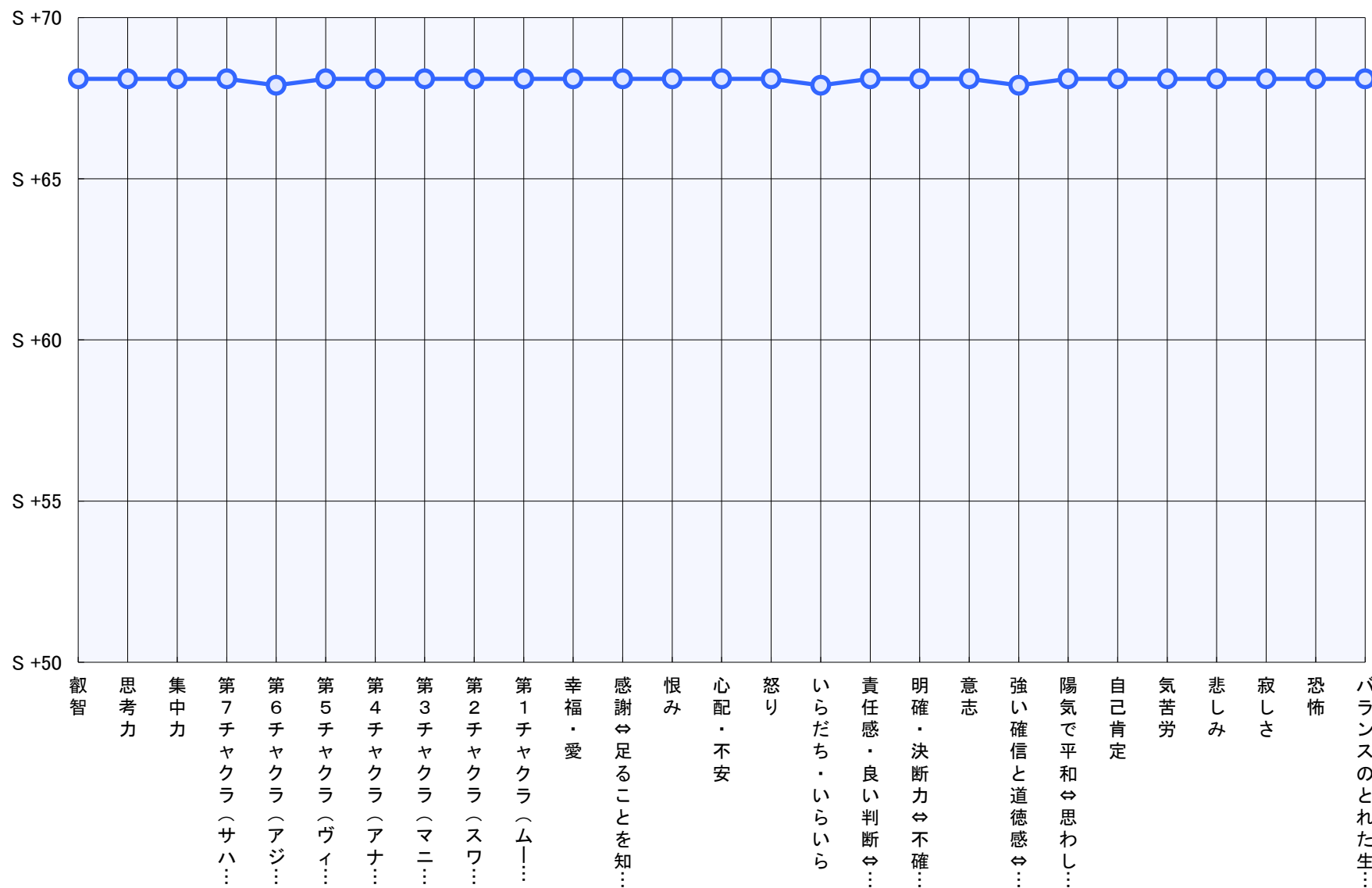
あとれとわの塩5年以上



あとれとわの塩5年以上



あとれとわの塩 5 年以上



測定値から導かれる指標（統計量）

1. 《活性度》… 波動値の高さ

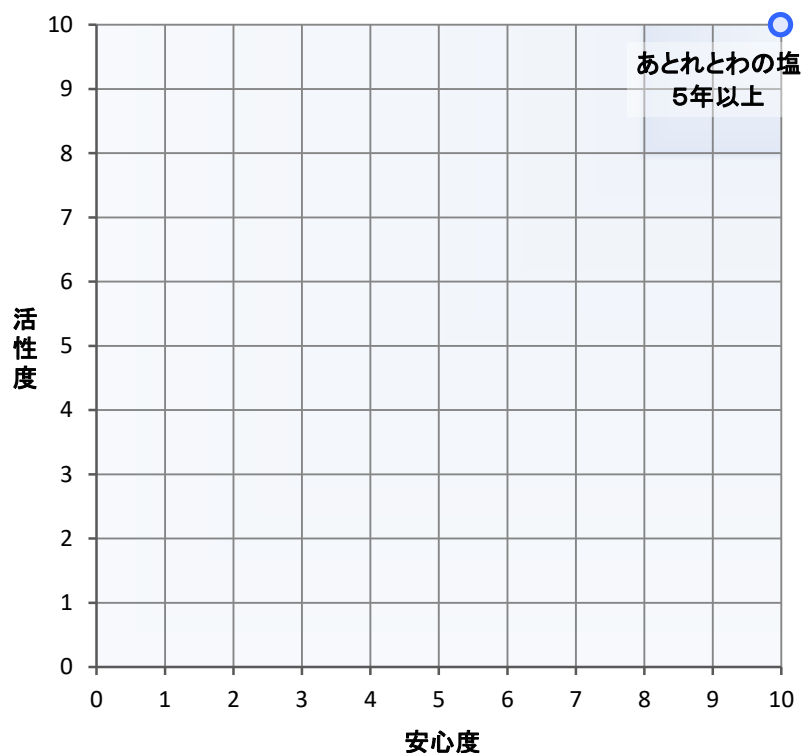
グラフ → 『《活性度》／世間の製品との比較』（3Dグラフ）
『様々な製品の波動分布Ⅰ／《活性度》』（分布グラフ）

	あとれとわの塩5年以上		
■ 最 大 値	S +68.1		
平 均 値（活 性 度）	S +68.1		
最 小 値	S +67.9		
* これまでに測定されている最も高い数値は S +68.1 です。			
■ これまでの最高値を10とすると	10.00		
波動の活性度を表します。 波動値の高さが意味するものについては、下記資料をご覧ください。 → 『物品・製品の波動値(人への作用)』			

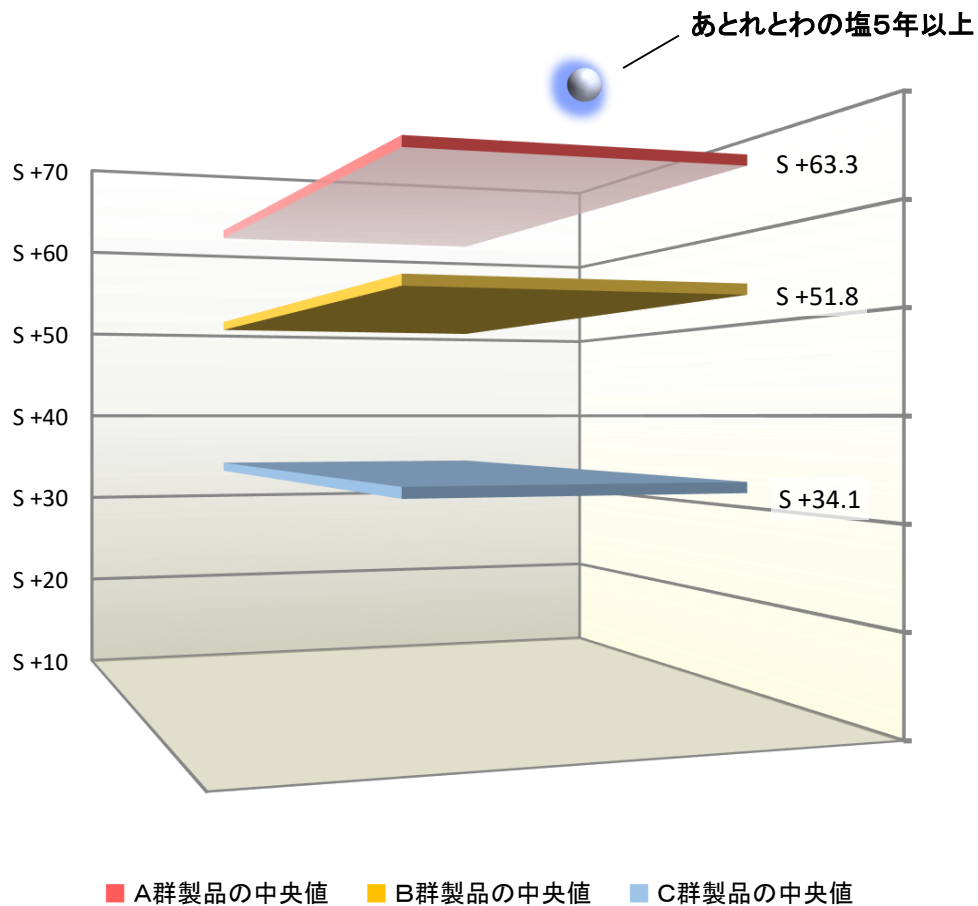
2. 《安心度》… バランス

グラフ → 『様々な製品の波動分布Ⅱ／《安心度》』（分布グラフ）

	あとれとわの塩5年以上		
■ 安 心 度	9.99		
安心して利用できる度合を表します。 ・ 数値が高い → だれもが安心して利用できます（食品など） ・ 数値が低い → 効能とリスクが同居するため、専門家の判断を要します（薬など） * 《安心度》は、標準偏差をもとに算出されています。			



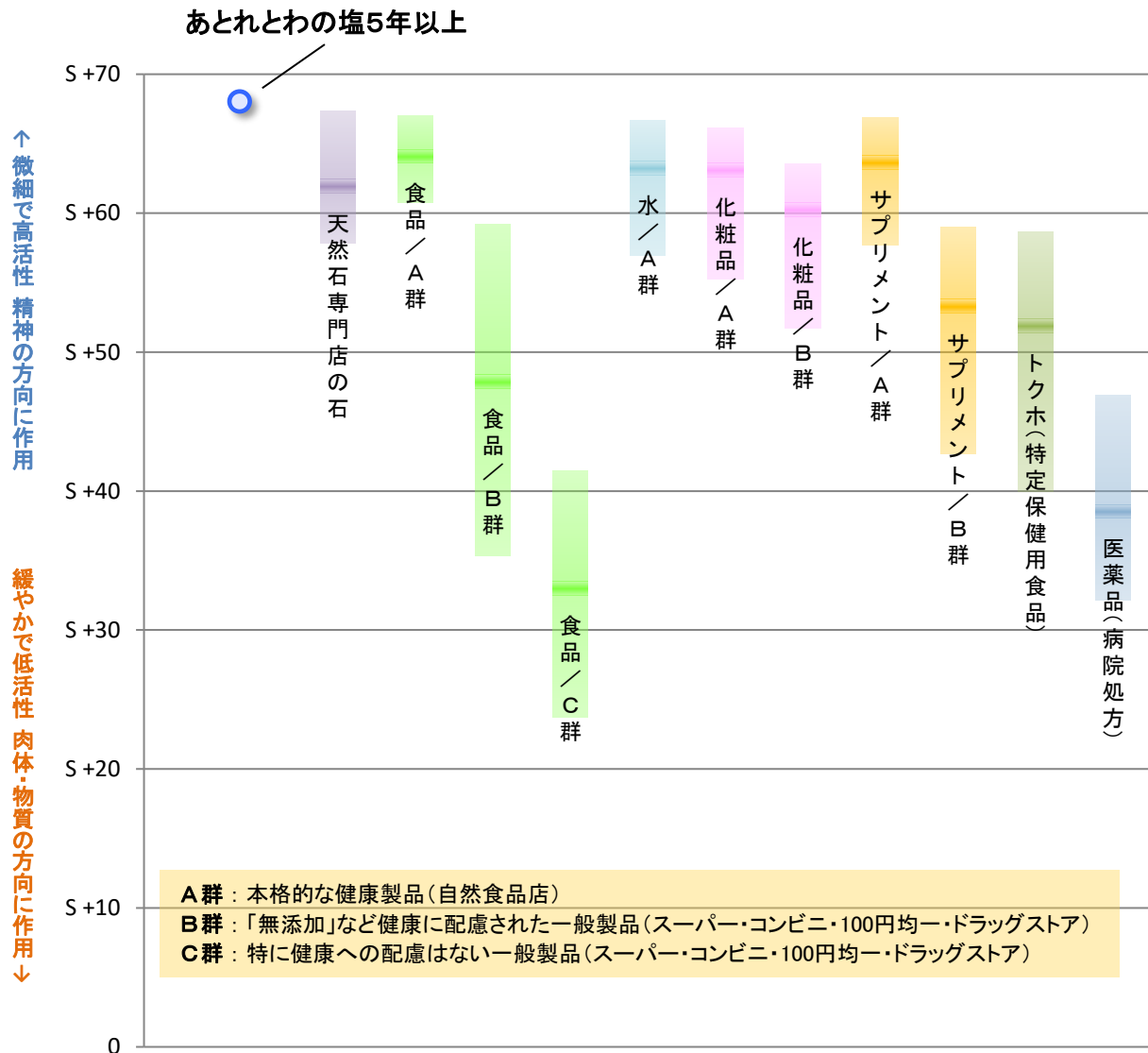
波動値の高さ／世間の製品との比較



- A群 本格的に健康・波動を考慮した製品
自然食品店・ヒーリングショップ等にて販売されているもの
 - B群 「無添加」「有機」等の表示がある、健康に配慮された一般製品
スーパー・コンビニ・100円均一・ドラッグストア等にて販売されているもの
(「トクホ」「機能性表示食品」等を除く)
 - C群 B群のような表示がなく、格別な健康への配慮はされていない一般製品
スーパー・コンビニ・100円均一・ドラッグストア等にて販売されているもの
- ・ 上のグラフは、現時点での推計値をもとに作成されております。
 - ・ 「中央値」とは、データを高低順に並べたとき中央に位置する数値のことです。
分布の形が正規分布になっていないため、平均値ではなく中央値を設定しました。

様々な製品の波動分布 I

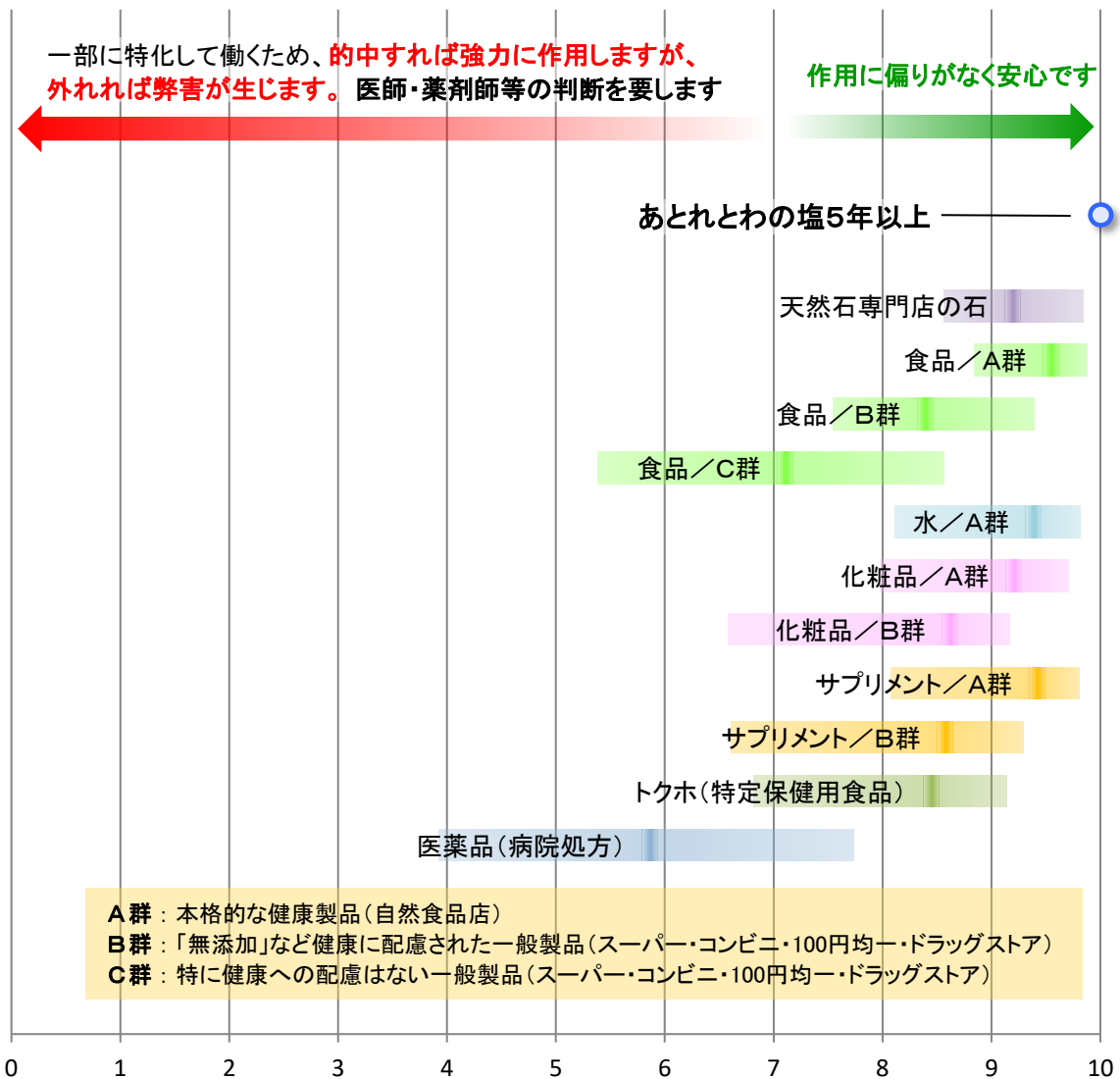
《 活性度(波動値の高さ) 》



- 各製品の波動値は、**高いところ、中間的なところ、低いところ**と、様々な領域にあります(波動の分布)。上のグラフでは、カテゴリー別に、製品の**約70%(中央値と、その上下35%ずつ)**が分布すると推定される範囲を描いています。* お手元の波動値(検体の平均値)が上図のなかでどこに位置するのかをご覧ください。一般に、上下とも、中央値に近いほど、該当する製品の数は多くなります。
* したがって、その上下(描かれていない部分)にも、格別高い、もしくは低い製品が15%ずつ存在していることになります。
- グラフ全体についても、波動の高さとして中央付近(S+40 ~ S+50)に位置する製品は、一般的で需要の多いものであると考えられます。
- カテゴリーの分類に際しては、「健康」「自然」「生命力」「感情・精神」「(作り手・売り手の)意識」など、波動値の高低に反映する要因を手掛かりとしました。

様々な製品の波動分布 II

《安心度(バランス)》



■ 《安心度(バランス)》とは

ひとつの製品であっても、測定項目によって波動値は異なり、数値間に差異が見られます。

《安心度》は、この差異から割り出したもので、以下の性質を表します。

- ・ **高値** = 格差が小さく、バランスがよい。誰もが安心して利用できる(食品など)
- ・ **低値** = 格差が大きく、アンバランス。特定の強力な作用が望める反面、リスクを伴う(薬など)

*《安心度》の計算式は、アクアタック研究室により作成したものです。

■ グラフの説明

《安心度》は、「天然石専門店の石」や「A群」では高く「医薬品」などでは低い、という傾向があります。

カテゴリー別に、製品の**約70%(中央値と、その両側35%ずつ)**が分布すると推定される範囲を描いています。

特定の効能を持たない「食品/C群」の《安心度》が低い理由として、添加物などの影響が考えられます。「医薬品」や「トクホ」のように特定の効能を目的として設計されたものではありませんから、想定外の偏りが生じていることになります。